

主要約200商品に在庫定数を設定 欠品を防ぎ、迅速に商品を提供

在宅介護の現場で、福祉用具事業者は速やかな納品が求められる場面が多い。環境が整わなければ、在宅介護が成り立たないことが大きな理由である。福祉用具大手のヤマシタ（静岡県島田市、山下和洋社長）は、商品ごとに在庫定数を定めるなどの取り組みで、迅速かつスムーズに顧客へ福祉用具を届ける。同社のサプライチェーンを管理するSCM（サプライチェーン・マネジメント）部の太田順平部長に話を聞いた。



太田順平部長

レンタル実績、緊急性
などで在庫定数を設定

急な退院、突然のけがや病気が、現場では「早く福祉用具が欲しい」と求められるケースがとても多い。しかし、これだけ多くの福祉用具が市場にある

中で、あらゆる商品を欠品がないようにをストックすることは難しい。

そこで当社では、ニーズが高い、つまりよく出る主要商品については、営業所ごとに在庫定数を決めている。この数量を確保することで、注文が入れば、いつでもすぐに納品できる。対象商品とその在庫定数は、我々の部署が過去のレンタル実績や緊急性の高い案件の多寡、そして各営業所の声を聞きながら定めている。現在、在庫定数が設定されている商品数はおよそ200。出荷実績が多いものだけでなく、緊急性が高い商品も対象としている。

例えば、床ずれ防止用具やたん吸引器などがそうだ。届くのが1日でも遅ければ、床ずれは悪化するだろうし、たん吸引が必要な人にとって吸引器がな

ければ、在宅で暮らすのは困難だ。簡単に「在庫がないのでお待ちください」という訳にはいかない。全国56の営業所は、この200商品について決められた数をストックし、いつ発注があっても速やかに届けられる体制をとっている。

しかし、決まった数の在庫を持っていても、まれに受注が重なってしまったり、欠品してしまったりもゼロではない。そうした場合も、SCM部が営業所間で在庫を都合するなどの調整を図っている。

また「今すぐこれが欲しい」というニーズ以上に多いのが、具体的にお使いになる時期や商品が分からないケースだ。例えば、「来週くらいに退院しそうだけど、もしかしたら早まるかもしれない。杖や歩行器など外出のための歩行支援用具が必要になりそう」といった場合だ。こうした問合せを受けると、現場の福祉用具専門相談員は聞き取りやアセスメントで情報を引き出し、必要になりそうな商品の当たりを付けて、在庫を確保

しておく。漠然とした問合せに対しても、福祉用具の専門職としてできる限り現状を聞き取り、いざ必要になった時には、適切なサービスが速やかに提供できるように努めている。

「効率化を推進して
も、品質は落とさなく」

レンタルで特に重要なのが洗浄・メンテナンスだ。在庫切れを起こさないためにスピードも重要だが、何より大切なのは品質。福祉用具を安心安全に使っていたくために、衛生面・機能面・美観など品質管理の基準を定めるため、部署横断での検討を行っている。その品質が維持できる範囲で、効率化を目指していきたいと考えている。

また当社では、環境への取り組みとして、洗浄する際には電解水を使用し、必要以上の洗剤使用を極力減らしている。水と塩が原料の電解水は環境への負荷が少ない。業界のリーディングカンパニーとして、今後も環境にやさしい取り組みを推進していく。

連載

豊かさを届ける 福祉用具サービス